

黄砂

毎年3月になると大陸から「黄砂」がとんできて、喘息の人など息苦しくなるらしい。で、TVや新聞の説明によると、はるかタクラマカン砂漠やゴビ砂漠の砂嵐で、小さな砂が偏西風によってとんできてくる。黄河の上流は黄土からなるから、「黄砂」というのだという。・・・タクシーの運転手さんが言う、これに、毒ガスをまぜられたら、日本は一発でんな。プッ。オレも同じことを考えてました。現に工場からの煤煙をみよ。

ところで、その地方に住んでいる人々の生活で、排泄の方はどうなっているのだろうか。モンゴルの遊牧民の所に行って「手洗いはどこに？」ときくと、ゲルのまわりを指さして、「そのへんで。」エッ？囲いも何もあれへんやん。木陰もないし。孤児院を慰問したら、一応の建物はあったが普段は鍵をかけてある。日本からもボランティアが沢山行っているし、世界中から来ている。みんなはどこでするのですか？と念のため尋ねると小高い山を指さす。そこには林があって、「みんな、そこでしている。」・・・当然若い女性もいました。

娘が遊牧民を訪問して、泊めてもらおう。「トイレットペーパーなんか、持って行ってあげなくてもいいのか？」というのと、「いらんねん。**向こうの人は拭けへんもん**」・・・まあ、砂漠のど真中ということはないだろうが、それに近い所にも多勢、住んでいる。いわゆる垂れ流しだ。・・・これが黄砂と称するものに混じっているとなると・・・実際には、犬が食べるらしいが。ではその犬の・・・こんがらかってきた。

かほどに日本と世界の常識はかけはなれている。ウオシュレットなんかはものすごく進歩しているものなのです。世界一と称してもいい。